



「和解の務め」音信

Ministry of Reconciliation in South Africa

(21-2)

Jun. 2021

金煥・朴貞玉

「神は、キリストによって私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに与えてくださいました」(Ⅱコリント 5:18)

宣教の神、三位一体の神の御名を賛美いたします。いつも変わらず尊いご愛をもってお支え下さる宣教同労者の皆様に心込めて感謝いたします。

1. 日本と韓国への訪問

この度、しもべたちは幾つかの理由があつて昨年の年末から日本と韓国を訪問しました。一番大きな理由は家内のパーキンソン病の薬を補充するためでした。南アフリカで間違つた薬の副作用で大変な面に逢つたことがありましたので、今まで使つて来た日本の貼り薬を補充する必要があつたのです。南アフリカから出発する前のPCR検査、成田空港についてからの検査がありました。結果は両方とも陰性でほつとしました。自宅に着き、2週間の自粛期間を過ぎました。それも暫しのこと、愛する家族との再会、諸教会との交わりがすべての旅路の苦勞を忘れさせてくれました。2月12日からは韓国を訪問し、同じような手順を踏みまし

2. 和解の務め支援会の立上げ

この度、日本に滞在中、一つの成果がありました。それは、小生の働きのための支援会が立ち上げられたことです。自粛期間が終わるや否や、支援会のお世話をしてくださると申し出てくださった杉戸の野町先生、足立の曹先生と数回会合をして、いよいよ支援会を立ち上げることができました。支援会の代表は野町先生、会計は曹先生が担い、支援会の名称は「和解の務め支援会」にすることにしました。2年後、小生の日本同盟基督教団の委託派遣宣教師の務めが終わりますが、退任後にも、主のお許しがある限り、ここで「一粒の麦」になりたい心算で続けて奉仕させて頂きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

ました。今回の旅の目的の一つであった、クリスチャン共同体「イエスマウル(イエス村)」を訪ね、共同体の生活ぶりや運営の術について色々教えて頂きました。

3. 宣教農場の改修

現地についてから早速宣教農場の改修に取り掛かりました。農場住宅は古くなり、改修しなければなりません。業者を頼まず、ボランティアの手を借りて着手しまして、2ヶ月の後、無事に人が住めるようになりました。この場所が「ベテル(神の家)」となることを心よりお祈りしております。



改修中の農場住宅

4. 祈祷課題

- ① 支援会の趣旨に同調する方が起こされ、支援会がスムーズに運営できるように。
- ② 宣教農場の住宅と倉庫が順調に改修され、宣教献身者たち「イエスの小さいしもべたち」の生活と礼拝の場所となるように。
- ③ 今年下半期から始めようとする「和解の宣教集会ポチエフストロム」のために。

皆様の、主にあるご健康とご多幸をお祈りいたします。



正月の時、家族写真